
ポーシェ・・・チェルノブイリに思いをよせて

チェルノブイリ救援・中部 事務局から 1991.4.26 No.7

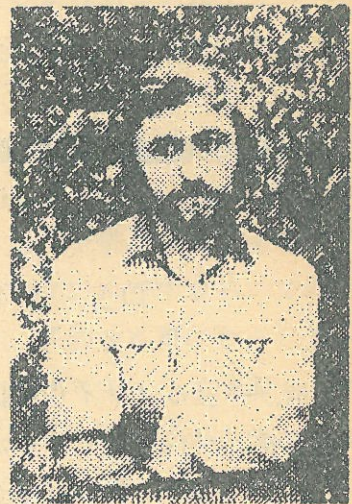
チェルノブイリ原子力発電所の事故から5年、そして救援・中部ができて1年が経ちました。ベールにつつまれた遠い国、ソ連の被災者を救おうと各地から名古屋へ思いを同じくする人たちが集ったのは今年の4月だったのです。恐らくどのスタッフにとってもこれまでの一年間は只々遠い先に明かりを探し、追いかけているような気がしたことでしょう。暑い夏の日に行われた現地へ行く代表の壮行会、帰国後の現地报告会、現地新聞社ジトミールスキーヴィスニーク紙との共同の救援活動開始、クリスマスカード作戦、総数1万8千部に上ったカレンダーの送付。そして現地の家族から送られて来た120通以上の手紙と子供たちからの沢山の絵、そのための手紙と絵画展の開催、こもれびコンサート、広河隆一さんの講演会などなど・・・あわただしく、そしてとても忙しい一年が過ぎました。これからの一年も救援・中部スタッフは新たな救援プランに取り組んでいます。これからもどうぞチェルノブイリ救援・中部をご支援ください。

さてそんな私たちの元へチェルノブイリ原発事故の日を前に現地の新聞社から「すべての日本人々へ」と題して次のようなメッセージが届きました。

「すべての日本人々へ」

1986年4月26日、チェルノブイリ原子力発電所の事故は、世界に衝撃を与えました。ロシア、白ロシア、ウクライナの広大な地域に死の放射線が広がりました。東スラブ文明の歴史的な中心地を放射線によるガンが襲ったのです。

現在3地域に住んでいる子供も大人も白血病に侵されて死んでいます。この春遺伝学博士のデータによりますと、我々の住むジトミール州で去年の出産の半分は、異常出産でした。ジトミール州の166の村に居住禁止命令が出されているのにそこでは人々が住み続けています。移住資金がないからです。



ネチポレンコ編集長

国によるチェルノブイリ原発事故の救援計画を不十分とみなしたジトミール市のジャーナリストたちが、汚染地域から人々をきれいな場所へ移住させるのが第一と考え、民間移住基金を創設しました。この基金はすでに一年半活動し、その間子供の多い6家族が移住でき、多くの病院や子供の施設、幼稚園などに救援活動を行いました。移住基金のすべての仕事を独立週刊誌、ジトミールスキーヴィスニックが担当しています。

あなたがたの国からのこの移住基金には大きな救援を受けています。中部地方、宮崎市、九州などの、私たちの日本の友人である救援グループが救援物資を集めウクライナへ送るという非常に大きな仕事をしています。

既に非常にきれいな食料品や薬が届いています。けれども、心の支援も同じように重要です。あなた方からの手紙やクリスマスカードは、私たちの国の人々にとって大変重要な意味を持っています。そしてウクライナと日本の母親たちの文通キャンペーンも両国の民間レベルの交流としては重要な意味を持っています。

私たちはウクライナや日本の人々がお互いによく理解しあえることを期待しています。チェルノブイリ被害者への救援の積極的な活動に参加される日本の全ての人々に深く感謝致します。私たちは一緒に力を合わせて広島や長崎を二度と繰り返さないよう、またチェルノブイリのような事故が二度と起きないように出来るだけのことをしましょう。

私たちのお互いの協力に支援の気持ちを持っていて下さる方のために、ソ連の外国経済銀行、募金口座の番号と住所をここにお知らせします。

住所：262001 ジトミール市ソビエト広場1-25

ジトミールスキーヴィスニック週刊誌編集部

キエフ外国経済銀行口座番号：782070351

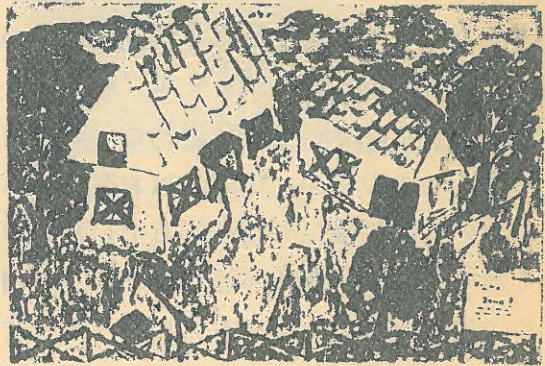
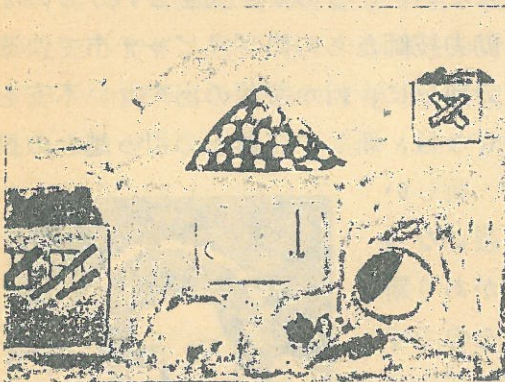
コード：002 MΦO 005119

以上 ジトミールスキーヴィスニック週刊誌編集部より

尚、チェルノブイリ救援・中部では、このジトミールスキーヴィスニックの編集長、バレリー・ネチポレンコ氏と現地の女性小児科医師を今年の夏日本へ招待し、各地での講演会を企画しています。

「チェルノブイリからの 107通の手紙・絵画展」から

3月末に現地の家族から届いた沢山の手紙や子供たちの描いた絵の展示会を名古屋市内で行いました。新聞やテレビでかなり大きく取り上げられましたので存知の方もいらっしゃると思います。下記に手紙の抜粋を一部ご紹介します。既に8月頃まで各地での展示会開催の申込みを沢山いただいています。近くで催された際にはどうぞいらしてください。



手紙抜粋

私の家族は、もうすでに4年間高い放射線の地域に住んでいます。子供は3人です。私は自分のことは心配していません。もうどうしようもないんですから。でも、私の目が悪くなって、あまりよく見えません。足が痛く、しょっちゅうだるく、疲れを感じています。私は、自分の子供達は将来どうなることか、私には孫が生まれるだろうか、もし孫が生まれたら、どんな孫生まれるのだろうと、いつも考えています。

もちろん、子供達は、そういうことを考えていません、子供だから。そして、私も子供達にそのことを言いません。どうせ、何もできないんですから。できれば、できるだけきれいな食料品を買うよう努力したり、子供達を夏になると別のところへ、体を治すため送ったりするのですが、それだけです。今年の夏も、泣きながら、きれいなキャンプで休養するための許可証を子供達だけのものさえあればいいと、手にいれました。——

ジトミール州ナロジチ

ジドハラ=イサミハラナ

私たちの家には、大きな不幸が訪れました。最近、私の3才の娘ターニチカが死んだのです。医者は、心不全と血液病と診断しました。彼女は、チェルノブイリの後に生まれました。とても賢い子でいつもおしゃべりをしていました。

「ママ、私、心臓や頭が治ったら、元気になって早く走るわよ」と言っていました。それなのに運命が彼女に残酷に押し寄せました。ターニチカは、死ぬ前に私に言いました。「ママ、私が死んだら、土の中に埋めないでね。」と。母親としての不幸を言葉では表現することができません。これは我が子を持つ母親にしかわからない気持ちでしょう。

イミリチノから アライセイ=イワーノフナ

多分、人間は長い間幸せでいることが出来ないというのが、人生というものなのかも知れません。私たちは、(原発の)動力技師たちの町プリピャチ市で快適に暮らしていました。ですが、原発の火災の前日に、何か説明の出来ない不安を抱きました。そしてそれは私たちの一番幸せな日、新しい住居への引っ越しの日が起こったのです。夕方にはお客を呼んで、新しい家での生活に喜びもひとしおでした。でも夜になってあの恐ろしい瞬間が起きました。避難があり新しい生活もみな、夢のものになってしまったのです。それでも、その後随分長い間生まれた土地に戻るのだと信じていました。

今は、夫や私が学生時代を過ごした町、ジトミール市に住んでいます。私たちには娘アヌーシカ(写真 8才)がいて、今3年生で、音楽学校にも通っています。絵も上手です。

日本の親愛なるお母さま、ご両親とご兄弟、親しい方々が健康で、平和で、心配事ありませんように。ポブキン一家より尊敬をこめて。

ウクライナ共和国ジトミール市



展示会を開催してください

以上の手紙(家族の拡大写真を含む)や子どもたちの絵などを展示会用にお貸しします。貸出要綱は、最終ページ掲載、問合わせ先の岡部さんまでご請求ください。また現地家族との文通を希望される方は、下記申込み先までご応募ください。文通可能な外国語、家族について簡単な紹介をお願いします。

宛先：〒460 名古屋新栄郵便局局止「チェルノブイリ救援・中部」文通係

チェルノブイリ同行カメラマン 山内孝治さんが 亡くなりました。

昨夏救援・中部の代表として坂東さんと渡辺さんが被災現地を訪れた際、同行したカメラマン山内孝治さんが4月11日、アフリカのナミビアで取材中、乗っていた車が横転し、死亡されました。

残された自宅机の上には山内さんが書いた救援・中部取材の企画書が残されていたそうです。体当たりで世界をかけめぐった山内カメラマンの壮絶な死に言葉もありません。心から山内さんのご冥福をお祈りします。



写真：同行取材中の山内孝治さん
ドニエプル川にて

◎「こもればコンサート」をひらきました

カトリック名古屋教区とアマチュアフォークグループ「こもれば」のご協力を得て4月7日南山学園講堂にて「こもれば」コンサートを開催しました。「こもれば」は、三重県津市に住んでおられる目の不自由なご夫妻のフォークグループです。コンサートでは、坂東さんの現地についての講演の後、お二人がこの日のために作曲されたオリジナル曲などが披露されました。

このコンサートの開催にご尽力された名古屋教区の飯島昇一さん、竹谷神父、音響や照明のスタッフの皆さんありがとうございました。「今日は結婚式が長引いてね」とかけて下さった神父さんもいらっしゃいました。来場して下さった方々、病気で行けないけど、と封筒にカンパをいれて送ってくださった方本当にありがとうございました。

◎広河隆一さんの講演会をひらきました

広河さんは、今年1月に「ウラルの核惨事」のあった現地にジャーナリストとして世界で初めて取材されました。講演会は、4月12日（金）名古屋市の教育館で行い、ウラルの現状や再び入ったチェルノブイリ被災地の現状をスライドを交えながら話していただきました。

*****救援物資はすべて届いています*****
救援金やクリスマスカード、カレンダーを寄せていただいた皆様へ

チェルノブイリ救援・中部でも一時送った物資が空港で行方不明になったことは、前回のポーシェでもお伝えした通りですが、幸いその後全ての物資が見つかり、現地に届いたことが確認されたことをご報告させていただきます。救援物資・救援カンパなどを寄せていただいた皆様ここに改めてお礼申し上げます。

これまでに4回にわたって送られた物資の総重量は、7トンにもなります。紙面の都合で詳細を掲載することはできませんが、送り先は、これまで主にこちらの希望で特に子どもたちのいる施設や病院に渡されています。また大量に送られたカレンダーは現地で販売されており、全て売れば3、4軒の住宅が買えるそうです。

○現地での送り先（例）

ナロジチ中央病院小児病棟、ナロジチ・セレッツ村中学校、幼稚園、オブルジ中央病院、オブルジ第一幼稚園、コーラステン地区小児授乳施設、コーラステン地区幼稚園、イスコロチ幼稚園、ジトミール市小児甲状腺・放射線治療所、ウシヨミール村幼稚園、カリノフカ幼稚園、ミルネイ住宅地区幼稚園 他、多数。

【声・声・声】

（氏名省略・チェルノブイリからの手紙・絵画展に寄せられたメッセージより）

—6才や7才の子どもにあのような悲しい絵を書かせた原発事故。同じ年頃の子を持つ親として胸がつぶれる思いです。

—言葉にならないし胸がいっぱいです。

—一人でも多くの人に見て、知ってほしいと思いました。今も（そしてこれからも）苦しんでいる人々がいること、明るい未来があるべき子供たちに事故が暗い影を落としていることを。

—高校一年の私ですが、今日は本当に驚きました。子どもたちがこんな悲しい絵を書くなんで・・・

（事務局：これ以外にも救援金などと共に沢山の方たちからメッセージをいただいています。紙面の都合ですべてを載せることができません。ご了承ください。）

チェルノブイリのその後

～海外ニュースとじこみ帳から～ (記事要約のみ)

○オーストラリアへ92人の子供たちが訪問 (AFP)

チェルノブイリ原発事故による放射能にさらされ、深刻な病気が危惧される子供ら55人が3月23日オーストラリアに到着し、さらに37人が第2陣として到着する予定である。一行は、2才から10代後半の子供や少年少女で、この他今年末にも子供たちが訪れる計画がある。

これにはソ連政府が航空費を出しているが、オーストラリアの「チェルノブイリ国立救援基金」とオーストラリア・スカウト協会が国連の救援計画に基づき、迎えいれている。医療専門家によると、今のところきわだって病気ではないが、10年から15年後に、多くの子供たちがガンのような深刻な病におちいるかもしれないと述べている。

キューバを訪れている子供たち(前回ポーシェで紹介済み)の観察結果によると、ほとんどの子供たちの体重が増え、血液中の放射能が75%低下したという。尚、子供たちは、オーストラリアで少なくとも1カ月過ごす予定。

○死者7000人報道をめぐって (イギリス)

4月14日付けのインディペンデント紙で、余命2～4年を宣告されたチェルノブイリ原発事故の科学調査担当幹部でウクライナ共和国の物理学者、ウラジミール・チェルノセンコ氏が、これまで発表されていたよりもはるかに多い7千人から1万人がすでに死亡しており原子炉からの放射能の放出も発表された3%ではなく60%から80%が放出されたことを明らかにした。(注:これについては毎日新聞などでも紹介された。)

これに反論して19日イギリスの原子力機関専門家のマルコム・グリムストン氏は、UPIに対し「この数字は、すべての死亡原因をチェルノブイリによるものとしまっている。35才から40才の人60万人あたりの死亡者数は、西側各国でさえ事故の起きた年から5年間の合計は7千人になる。人々が強い放射能にさらされた証拠はない。多くの人が”放射線恐怖症”だ。」と述べた。

これに対し環境保護団体グリーンピースは、「チェルノブイリの事故は、短期間に非常に強い放射能を受けた広島や長崎のケースと全く異なり、その経験を適用できない。今度は長い間に渡って低い線量を受けており、広島や長崎では見られない免疫の低下を多くの科学者が予見している。」と反論している。

お知らせ・お願い

★救援・中部ではお寄せいただいた救援金をできる限り直接の救援物資購入に使いたいと思っておりますが、救援拡大のために一部を通信費や広報活動に使います。ご了承下さい。

★坂東弘美さんの現地訪問記がタイトル「とどけウクライナへ」として八月書館よりまもなく発売。

★現地新聞社のチェルノブイリ特集翻訳版、現地家族からの手紙集（展示会で頒布中・文通マニュアルつき）ができました。頒価200円。丸木さんがチェルノブイリ救援のため特別に書いていただいた素敵なポスターが出来ました。（一枚500円送料別）また不定期発行ですが、ポレーシェ購読を募っています。年間購読料千円です。

◎ご注意

チェルノブイリ救援・中部およびその加盟団体は戸別訪問による募金活動は一切しておりません。不審なカンパ要請には充分ご注意下さい。

救援活動収支報告 (1991.1.8-4.20)

収 入	金 額	支 出	金 額
前期繰り越し	3,879,768	印刷費コピー費	18,355
カンパ収入		FAX、国際電話	150,650
(個人54件)	420,721	カレンダー送料	539,523
(団体14件)	1,412,789	手紙展写真撮影	68,199
預金利子	29,939	専用FAX設置	194,464
雑収入	4,000	切手代・文房具等	145,534
		会場費スライド使用	3,780
		小計	1,120,505
		次期繰り越し	4,626,712
合 計	5,747,217	合 計	5,747,217

チェルノブイリ救援・中部 (郵便振替口座 名古屋8-108610)

代 表：坂東弘美 名古屋市天白区御幸山1201 B204

問合せ先：(問合せはなるべく郵便でお願いします)

岡 部 (昼のみ) 豊橋市東新町334 TEL.0532-52-2380

長谷川 (夜のみ) 名古屋市名東区赤松台502 TEL.052-773-0271

山 盛 名古屋市緑区作の山町メゾン作の山207 TEL.052-892-9706